

## 平成19年度病害虫発生予察注意報第2号

平成19年7月18日

鳥取県病害虫防除所

### 注意報の概要

穂いもちの伝染源となる葉いもちの発生が中間地～山間地で多くなっています。向こう1ヶ月の気象予報によると、前半は平年に比べ曇りや雨の日が多いと予想されており、葉いもちの発生はさらに増加し、穂いもちの発生も多くなることが見込まれます。穂いもちの被害を防ぐために、穂ばらみ期、穂揃い期の防除を徹底しましょう。

### 病害虫名：イネいもち病（穂いもち）

- 1 対象作物 イネ
- 2 発生地域 中間地～山間地
- 3 発生時期 やや遅い
- 4 発生量 多い

### 5 注意報発令の根拠

- (1) 7月15日現在、県全体の葉いもち発生ほ場率は平年並の12.5%（平年：15.8%）であるが、中間地～山間地では、発生ほ場の52%が急性病斑の多いほ場であり、葉いもちの病勢が進展している。
- (2) 本県では、本病に弱い「ひとめぼれ」、「コシヒカリ」の栽培面積が約90%を占めている。また、イネの生育は軟弱気味であり、7月12日現在、県予察ほにおけるイネの体質（でんぷん蓄積率）は、本病に罹病しやすい状態となっている。
- (3) プラストム（いもち病発生予察システム）による葉いもちの感染好適日、準感染好適日が7月10日以降、連続的にみられており（表1）、葉いもちの発生はさらに増加するものと見込まれる。
- (4) イネの出穂期は、「ひとめぼれ」、「コシヒカリ」ともにやや遅いと予想されていることから、穂いもちの発生時期はやや遅いと見込まれる。
- (5) 7月13日発表の向こう1ヶ月の気象予報によると、前半は平年に比べ曇りや雨の日が多いと予想されていることから、葉いもちの上位葉への発病が拡大し、穂いもちの発生が多くなることが見込まれる。

### 6 防除上注意すべき事項

- (1) 葉いもちは穂いもちの伝染源となるので、葉いもちの発生が多い場合には、葉いもちの防除を直ちに行う。
- (2) 穂いもちは発生してからの防除は困難であるため、穂ばらみ期および穂揃い期の2回、粉剤、水和剤等による防除を徹底する。なお、降雨が続く場合は、雨の止み間をみて防除を行

う。この場合、散布後約3時間経過すれば、降雨の影響は少ない。

- (3) 粒剤を使用する場合は、各薬剤の使用基準を確認して、出穂前の所定の時期に湛水散布する。湛水散布にあたっては、農薬のラベルに記載されている止水に関する注意事項等を確認するとともに、止水期間を1週間程度とし、また、農薬の流出を防止するために必要な措置を講じるように努める。
- (4) 防除薬剤は表2を参考とする。また、農薬の使用基準を遵守するとともに、使用上の注意事項を守り、散布作業者の安全の確保に努める。

表1 プラスタムによる感染好適日の出現状況

日付	鳥取	岩井	青谷	智頭	倉吉	米子	下市	境	茶屋
7/1				-	-	-		-	-
7/2	-			-		-	-	-	-
7/3	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7/4	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7/5	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7/6	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7/7	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7/8	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7/9	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7/10	-		-	-	-	-	-	-	-
7/11	-	-	-		-	-	-	-	-
7/12	-	-	-	-		-	-		-
7/13		-	-	-	-	-		-	-
7/14				-			-		
7/15	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7/16	-	-	-	-	-	-	-	-	-

注) 感染好適日、準感染好適日

表2 防除薬剤

剤型	薬剤名
粒剤	イモチエース粒剤
	イモチミン粒剤
	コラトップ粒剤5、コラトップ1キロ粒剤12等
粉剤 水和剤	カスミン粉剤DL、カスミン液剤
	カスラブサイド粉剤DL、カスラブサイド粉剤3DL
	カスラブサイド水和剤
	ノンプラス粉剤DL、ノンプラスフロアブル
	ヒノザン粉剤2.5DL
	ビーム粉剤DL、ビームゾル
	ブラシン粉剤DL、ブラシン水和剤、ブラシンフロアブル
	ラブサイド粉剤DL、ラブサイドフロアブル等